



領域を超えた臨床能力の底上げに

評者 | 大塚文男 岡山大学術研究院教授・総合内科学

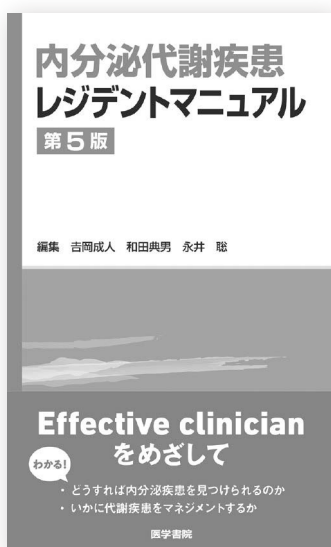
内分泌代謝領域は、医学生やレジデントにとって、いつも苦手とされる分野の1つである。一方で、私がそうだったようにこの領域が学生時代から好きなレジデントもあり、本書のようなマニュアルを読むと今でもワクワクする。内分泌代謝の診療では、医学生・初期研修医から基本領域専攻医では日常診療に潜む内分泌疾患を見逃さないようにいかにアンテナを高くするかがポイントだが、内分泌代謝専攻医にとっては甲状腺疾患・副腎疾患・下垂体疾患・性腺疾患など数々の病態への診断・治療から、常に遭遇している糖尿病診療の実践・応用まで、多くのハードルがあり、すぐに使えるわかりやすいマニュアルが必携といえる。

われわれの教室では、内科・総合診療専攻医と内分泌代謝専攻医の両者が今まさに研鑽しており、初学者から専門医までの視点で、教室員で楽しく読ませていただいた。まず全体を眺めると、レジデントが内分泌代謝診療において比較的遭遇しやすい病態がピックアップされており、それぞれの内容が過不足なく簡潔に載っていることに気付く。さらに多岐にわたる疾患でも、それぞれの情報にアクセスしやすい構成となっている。見逃さないためのチェックリスト、内分泌検査の解釈、そして合併症や治療まで、処方例も交えて詳細に記述されていることから、今すぐ知りたいことにたどりつきやすい即戦力となるような工夫がみられる。

さらに読み応えある「症例」や「Side memo」も、ほぼすべてがこのたびアップデートされていることに驚く。「症例」には実臨床で遭遇しやすいケースが記載されており、臨床場面を具体的にイメージしながら読み進めることができ、「Side memo」には最新のトピックスもしっかり記載されている。医学生やレジデントが勉強を始めるのにはもちろん、指導する側の知識の整理にも役立つ内容である。この6年間でアップデートされてきた薬剤、診療ガイドライン、スティグマやアドボカシーといった医学的トピックスについても、本マニュアルで触れていることは特筆すべきである。

ITによる用語検索が普及している昨今、初版から数えること四半世紀の長きにわたり本書が改訂され第5版の改訂までに至ったことは、内分泌代謝領域を学ぶ専攻医や若手医師にとって愛され信頼されている証しであろう。初学者向けの入門的な要素と、専門医からベテラン向けの診断・治療のアップデートの両者の視点から、本書はなかなかの優れものである。“レジデント”マニュアルではあるが、鑑別や診断に必要な検査、具体的な処方や経過についても記載され、診療を始めたばかりの研修医からベテラン医師・専門医まで、幅広く使える一冊である。加えて執筆された医師の声も盛り込まれ、マニュアルを超えて読みものとしてもワクワクしながら勉強できる。

本書に記載されていることを吸収していくと、領域を超えた臨床能力の底上げになることは間違いないだろう。レジデントが勉強を始めるのにはもちろん、指導する側の知識の整理にも役立つ本書、ぜひ皆さんの外来・病棟にも置いていただきたい。



内分泌代謝疾患レジデントマニュアル 第5版

吉岡 成人、和田 典男、
永井 聡=編

定価：3,740 円(本体 3,400 円+税 10%)
B6 変型・432 頁／医学書院／2023
[ISBN978-4-260-05272-6]